

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

(令和3年度決算版)

入間市 下水道事業

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

## 投資計画 (中長期経営計画【中間評価・見直し】P2~3「基本方針1 事業の選択と集中 基本施策1」)

### ①改築更新事業 (長寿命化対策及び不明水対策)

下水道施設の維持管理を図るため、老朽化した管路施設の計画的な改築事業や不明水対策事業を実施します。

#### ■汚水管の改築更新事業費 (更生、布設替え等) (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	92	169	167	327	327	150	116	122	147	106	1,723
実績値	70	108	85	121	127	-	-	-	-	-	-
差異	△22	△61	△82	△206	△200	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

入間ヶ丘団地内取付管布設替工事【第三工区】(汚水取付管114箇所)、令和2年度からの繰越工事である市道B160号線外1路線汚水管渠布設替工事(延長78.09m)等を実施しました。  
「入間市下水道ストックマネジメント計画」に基づいて発生すると見込んでいた幹線管路の改築工事が、調査の結果、生じなかったことから、計画していた事業費を下回りました。

#### ■雨水管の改築更新事業費 (更生、布設替え等) (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	154	154	0	0	0	0	0	308
実績値	5	0	0	6	5	-	-	-	-	-	-
差異	+5	±0	±0	△148	△149	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

入間ヶ丘団地内取付管布設替工事【第三工区】(雨水取付管35箇所)を実施しました。  
「入間市下水道ストックマネジメント計画」に基づいて発生すると見込んでいた幹線管路の改築工事が、調査の結果、生じなかったことから、計画していた事業費を下回りました。

#### ■有収率【目標値設定あり】

[担当課：下水道施設課]

管更生などを行うことで管きよに流入する不明水の量を削減し、有収率の向上を図ります。

(単位：%)

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値				R03年度(前期計画最終年度)⇒ 92.0			R08年度(後期計画最終年度)⇒ 92.0				
実績値	88.4	88.6	90.2	80.0	86.0	93.1	-	-	-	-	-
差異	-	-	-	-	-	+1.1	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

市道A31号線外8路線汚水管渠更生工事(延長942.84m)、旧防衛庁共済団地内汚水管渠更生工事(延長895.29m)等を実施しました。  
なお、令和3年度の有収率は、前年度に比べ7.1ポイント上昇し計画値を大きく上回りましたが、要因としては、大型台風の上陸が無く、梅雨時期の豪雨やゲリラ豪雨などの気象状況による影響が比較的少なかったことから、管渠内に浸入する不明水が減少したためと推察しています。

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

## 投資計画 (中長期経営計画【中間評価・見直し】P3「基本方針1 事業の選択と集中 基本施策2」)

### ②耐震対策事業

平成29年度策定した「入間市下水道総合地震対策計画」に基づき、重要な幹線等として位置付けた管渠の内、重要な幹線等の耐震化延長の目標値を、平成30年度から令和2年度の耐震診断結果及び今後、実施する耐震化工事を踏まえ再設定します。

#### ■汚水管の耐震対策事業費 (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	21	21	117	98	146	150	136	689
実績値	0	0	0	0	15	-	-	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	△ 21	△ 6	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

令和2年度からの繰越工事である公共下水道管路施設耐震化工事【20-1】(マンホール耐震化1箇所)を実施しました。

耐震診断により工事実施箇所が明確となり、詳細設計によって具体的な工法が確定したことから計画していた事業費を下回りました。

なお、令和3年度に完了を予定していた、公共下水道管路施設耐震化工事【R3-1】(マンホール耐震化1箇所、マンホール浮上防止1箇所)は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、資機材及び特殊工法による専門業者等の確保に期間を要することから、年度内に工事の完了が見込めないため令和4年度へ繰越しました。

#### ■雨水管の耐震対策事業費 (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6
実績値	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	△ 3	△ 3	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

雨水管路施設の耐震対策工事は実施していませんので、計画していた事業費を下回りましたが、耐震性能の有無を確認するための耐震診断(詳細診断)業務を令和3年度より開始しました。

#### ■耐震化延長【目標値設定あり】

[担当課：下水道施設課]

(単位：km)

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値				R03年度(前期計画最終年度)⇒ 17.0			R08年度(後期計画最終年度)⇒ 20.0				
実績値	0.0	10.2	10.2	12.3	16.7	18.1	-	-	-	-	-
差異	-	-	-	-	-	+1.1	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

耐震化延長は、耐震性能を有している管路の延長となり、中長期経営計画で示されている目標値は「重要な幹線等」の耐震化延長となります。平成29年度に「入間市下水道総合地震対策計画」を策定し、幹線管路や緊急輸送路及び河川・軌道横断部等に埋設されている管路施設を「重要な幹線等」に位置付けました。また、「入間市下水道総合地震対策計画」の中で、平成15年以降に布設された、陶管を除く管路施設については、地震による被害は少ないと想定できることから、耐震性能を有している管路施設としました。その結果、平成29年度末の「重要な幹線等」の耐震化延長は10.18kmとなりました。

令和3年度に耐震診断を行なった結果、管渠とマンホールの両方に耐震性能を有していると判定された延長は625.41mとなりました。また、耐震化詳細設計等により726.68mが耐震性能を有していると確認できました。その結果、令和3年度末における「重要な幹線等」の耐震化延長は18.12kmとなりました。計画的に耐震診断業務を実施していることにより、耐震性能を有している管路施設の把握が出来たため、計画していた延長を上回りました。

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資計画 (中長期経営計画【中間評価・見直し】P4「基本方針1 事業の選択と集中 基本施策3」)

## ③新規整備事業

「汚水整備」

公共下水道（汚水）事業計画区域内の土地利用状況に応じて未整備路線に汚水管渠を整備します。

「雨水整備」

雨水管渠の整備については、雨水の排水先である河川の改修工事が完了している必要がありますが、改修工事が完了していないため、雨水の吐口新たに設置することや、既に設置されている吐口の計上を大きく変えることが困難な状況となっています。そのため、令和8年度までに新たに雨水管渠を整備する計画はありません。

### ■汚水管の新規整備事業費（工事費のみ）

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	31	24	20	40	40	67	33	33	33	33	354
実績値	19	21	16	7	16	-	-	-	-	-	-
差異	△12	△3	△4	△33	△24	-	-	-	-	-	-

### □参考：汚水管の新規整備延長

[担当課：下水道施設課]

(単位：m)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	480	360	310	620	620	700	300	300	300	300	4,290
実績値	130	193	138	26	96	-	-	-	-	-	-
差異	△350	△167	△172	△594	△524	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

土地の利用状況に応じて令和2年度からの繰越工事（2件、33.73m）を含め、95.98mの汚水管渠整備を実施しました。  
土地の利用による新たな汚水管渠の整備が少なかったため、計画していた事業費及び延長を下回りました。

### ■雨水管の新規整備事業費（工事費のみ）

[担当課：下水道施設課]

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実績値	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	±0	±0	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

令和3年度は実施していません。

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

## 財政計画（中長期経営計画【中間評価・見直し】P5「基本方針2 財源の確保 基本施策1、基本施策2」）

### ①下水道使用料

下水道使用料は、本計画期間中において、現行水準を維持することを前提とし、今後の人口減少やお客様の水需要の動向に充分留意していきます。

#### ■使用料収入

[担当課：上下水道経営課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	1,345	1,344	1,344	1,341	1,339	1,345	1,338	1,328	1,319	1,309	13,352
実績値	1,358	1,361	1,351	1,364	1,363	-	-	-	-	-	-
差異	+13	+17	+7	+23	+24	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

令和3年度の下水道使用料収入（税抜き）は13億6,300万円となり、前年度決算額と比較すると、額で約100万円、率で0.12%下回りましたが、ほぼ前年度並みの収入が確保できました。

また、計画値と比較すると、額で約2,400万円、率にすると1.79%の微増となり、概ね計画通りとなっています。

下水道使用料の傾向としては、昨年度と比較すると令和3年度は横ばいとなりました。今後においては下水道使用料の減少が想定されるため、使用料収入に大きく影響する大口使用者の動向、使用者の節水努力や節水器具の普及などによる水需要の変化に引き続き注視する必要があります。

### ②一般会計補助金（一般会計繰入金）

下水道事業にとって一般会計からの補助金は事業を運営する上で貴重な財源ではありますが、公営企業の経営は独立採算が原則であることから、引き続き計画に基づき一般会計部局と協議した上で徐々に削減を図って行きます。

#### ■一般会計補助金

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	303	284	293	266	248	228	218	209	198	188	2,435
実績値	288	267	231	268	243	-	-	-	-	-	-
差異	△15	△17	△62	+2	△5	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

令和3年度の一般会計補助金は、前年度決算額と比較すると約2,500万円減額の約2億4,300万円となっており、補助金の抑制を図ることができました。また、計画の中で見込んだ額を500万円下回る補助額となりました。

下水道事業に対する補助金の額については一般会計との調整の上で予算に計上していますが、引き続き、一般会計との調整の上、補助金の繰り入れ額の確保に努めていきます。

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

## 財政計画

(中長期経営計画【中間評価・見直し】P5「基本方針2 財源の確保 基本施策3」、  
P16「3 今後収支見通し(総括)」)

### ③企業債

各年度の予算編成においては、予定した利益の確保に努めるとともに、内部留保資金の状況を見ながら企業債残高の計画的削減に取り組みます。

#### ■企業債発行額

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	163	213	362	390	400	400	218	147	195	114	55	2,494
実績値	132	124	170	177	315	245	-	-	-	-	-	-
差異	△31	△89	△192	△213	△85	△155	-	-	-	-	-	-

#### ■企業債償還金

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	-	797	778	757	736	690	659	606	560	514	464	6,561
実績値	811	797	778	754	732	686	-	-	-	-	-	-
差異	-	±0	±0	△3	△4	△4	-	-	-	-	-	-

#### ■企業債残高

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	-
計画値	8,302	7,718	7,301	6,935	6,598	6,308	5,219	4,760	4,395	3,996	3,587	-
実績値	8,271	7,597	6,989	6,412	5,995	5,554	-	-	-	-	-	-
差異	△31	△121	△312	△523	△603	△754	-	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

令和3年度の借入額は2億4,500万円となり、計画上の発行限度額である4億円以内に抑えることができました。また、当該年度の償還元金6億8,600万円を下回っています。なお、「公共下水道管路施設耐震化工事(R3-1)」が令和3年度から4年度へ繰り越しとなったため、その財源である企業債1,350万円は4年度に借り入れる予定です。  
企業債残高は、令和3年度末で約55億5,400万円となり、令和2年度末の59億9,500万円と比べ、4億4,100万円の減少となります。なお、令和3年度末の企業債残高が計画値に比べ7億5,400万円少ない要因としましては、平成28年度～令和3年度の企業債発行額が計画値より少なかったことが影響しています。

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

## 財政計画

(中長期経営計画【中間評価・見直し】P6「基本方針2 財源の確保 基本施策4」、  
P16「3 今後収支見通し(総括)」)

### ④自己資金(内部留保資金)

財政基盤を強化し健全な経営を維持するため、令和8年度末残高を7億円確保する計画としておりましたが、大規模地震等による災害を踏まえ、災害復旧に備える費用などを加え、確保すべき水準を11億円以上に設定します。確保すべき水準の算出は、当面の間に現金支出として支払う必要がある費用と、災害復旧に備える費用の合計額の6ヶ月分としています。

将来の改築事業等への資金確保を目的として、内部留保資金が確保すべき水準を下回った場合、企業債の更なる活用、下水道使用料の適正な水準等について改めて検討を行うものとします。

#### ■現金預金(年度末残高)

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	300	356	469	649	513	421	1,260	1,252	1,273	1,286	1,379
実績値	404	768	750	896	1,209	1,544	-	-	-	-	-
差異	+104	+412	+281	+247	+696	+1,123	-	-	-	-	-

#### □参考：流動比率

[担当課：上下水道経営課]

(単位：%)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	-	45.8	62.1	88.2	74.4	63.6	191.2	206.6	227.3	250.2	297.2
実績値	56.9	80.7	93.6	118.8	163.1	206.8	-	-	-	-	-
差異	-	+34.9	+31.5	+30.6	+88.7	+143.2	-	-	-	-	-

#### ■損益勘定留保資金(年度末残高)

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	172	210	289	454	396	323	981	842	831	861	749
実績値	183	365	444	674	954	1,288	-	-	-	-	-
差異	+11	+155	+155	+220	+558	+965	-	-	-	-	-

#### 令和3年度決算における進捗及び評価

令和3年度決算時点の貸借対照表における現金預金残高は約15億4,400万円であり、計画値を約11億円上回っています。これは収益的収支において平成29年度から計画を超える利益が生じていること、また資本的収支において僅かではありますが収支不足額が少なく済んでいることによるものです。

短期的な支払能力を示す流動比率は、令和3年度決算では206.8%となり、計画値に比べ143.2ポイント上回っています。令和3年度決算時点の現金預金残高が増加したことが比率を上昇させた要因となります。

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

## 投資・財政計画

(中長期経営計画【中間評価・見直し】P14~17「3 今後収支見通し(総括)」)

### ①収支計画

[担当課：上下水道経営課]

#### ■収益的收入

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	2,310	2,319	2,315	2,283	2,260	2,317	2,286	2,262	2,224	2,202	22,778
実績値	2,318	2,335	2,338	2,346	2,291	-	-	-	-	-	-
差異	+8	+16	+23	+63	+31	-	-	-	-	-	-

#### ■収益的支出

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	2,238	2,212	2,194	2,239	2,235	2,252	2,250	2,239	2,191	2,191	22,241
実績値	2,168	2,130	2,158	2,130	2,087	-	-	-	-	-	-
差異	△70	△82	△36	△109	△148	-	-	-	-	-	-

#### ■当期純利益

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	71	106	120	43	24	64	35	22	32	10	527
実績値	149	205	180	217	204	-	-	-	-	-	-
差異	+78	+99	+60	+174	+180	-	-	-	-	-	-

#### ■資本的收入

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	255	372	402	449	453	306	238	300	194	136	3,105
実績値	166	177	197	354	294	-	-	-	-	-	-
差異	△89	△195	△205	△95	△159	-	-	-	-	-	-

#### ■資本的支出

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	1,150	1,255	1,235	1,559	1,513	1,375	1,192	1,220	1,127	956	12,582
実績値	986	1,105	1,028	1,125	1,051	-	-	-	-	-	-
差異	△164	△150	△207	△434	△462	-	-	-	-	-	-

#### ■資本的収支不足額(補填額)

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	895	883	833	1,110	1,060	1,069	954	920	933	820	9,477
実績値	819	928	831	771	757	-	-	-	-	-	-
差異	△76	+45	△2	△339	△303	-	-	-	-	-	-

### 令和3年度決算における進捗及び評価

収益的収支では、収益的收入が22億9,100万円、収益的支出が20億8,700万円となり、その結果、当期純利益約2億400万円を計上することができました(金額は税抜き)。収益的收入は、計画値に比べ下水道使用料や長期前受金戻入が上回った影響等により、全体で約3,100万円上回りました。一方、収益的支出では汚水処理費、管渠を維持管理するための経費や減価償却費、支払利息が下回った影響等により、全体で約1億4,800万円下回りました。この結果、当期純利益は計画値に対し1億8,000万円上回ったものです。

資本的収支では、資本的收入が2億9,400万円、資本的支出が10億5,100万円となり、資本的収支不足額は約7億5,700万円となりました(金額は税込み)。計画値と比較すると、資本的收入は企業債借入額が下回った影響等により、全体で約1億5,900万円下回りました。一方、資本的支出は、計画値に比べ管渠を新設・改良するための事業費や流域下水道への負担金が下回った影響等により、全体で約4億6,200万円下回りました。この結果、資本的収支不足額は計画値に対し3億300万円下回ったものです。

今後の事業運営についても、引き続き中長期経営計画を基に計画的に運営していきます。

# 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

## 効率化・経営健全化の取組

(中長期経営計画 P81～82「第4章 効率化・経営健全化の取組」)

下水道事業の効率化・経営健全化の取り組みについては、目標達成のための具体的施策について、実施すべき事業内容、整備目標水準を明確にし、効率的かつ効果的に実施します。

### ①組織、人材、定員、給与に関する事項

計 画	令和3年度決算における進捗及び評価
<p>事業管理に必要な補完体制の確立、技術力の維持・継承のため、上下水道部の利点を活かした具体的な補完体制や必要な執行体制を検討します。また、脆弱な管理体制を避けるため、地方公営企業として継続するための人員確保および職員の意識改革と計画的な人材育成を実施します。なお、人員構成については、今後の更新事業に対応するため、事務職員・技術職員間で減員・増員が可能か検討します。 [担当課：上下水道経営課、下水道施設課]</p>	<p>日本下水道協会等が主催する研修会に参加し、下水道に関しての知識の習得に努めるとともに、OJTを実践し技術や知識の継承を図りました。また、担当内において定期的に打合せを行ない、業務の進捗状況や業務スケジュール等を共有しました。 上下水道事業の業務の効率化を推進するため、組織の再編成に取組みました。また、耐震対策等の既存管路施設の維持管理事業を推進させるため、定数管理を担当する部署に職員の増員を要望しました。</p>

### ②広域化・民間資金、ノウハウの活用に関する事項

計 画	令和3年度決算における進捗及び評価
<p>本格的な人口減少社会の到来が見込まれているため、効率的な施設管理として既存施設の活用、水道等他分野との連携、行政界を超えた複数の各地方公共団体間における地域的な連携による広域化・共同化を検討します。 [担当課：上下水道経営課、下水道施設課]</p>	<p>例年、埼玉県下水道推進協議会に参加し、他市との意見交換等を行い情報の共有化を図っていますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催となりました。 水道事業と連携し、大規模団地の上下水道工事を一体的に実施することで、工期の短縮化を図っています。</p>

### ③その他の経営基盤の強化に関する事項

計 画	令和3年度決算における進捗及び評価
<p>将来の更新財源の確保や人口減少等による使用水量の減少の見通しを踏まえた使用料収入とします。施設の計画的な点検・調査及び改築・更新を促進するため財源の確保に努めます。平成27年度に地方公営企業会計を導入したことにより、財務諸表である損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー等を活用し、経営の見える化によるアカウンタビリティーの向上を促進します。今後も汚水処理費の削減、適正な使用料収入に努め、回収率の向上を図ります。 [担当課：上下水道経営課]</p>	<p>令和2年度決算の「財務諸表」に加え、近隣市や類似団体と比較可能な「経営比較分析表」についても、ホームページ等を活用し市民向けに公開するなど、経営の見える化に努めています。令和3年度の決算状況についても順次公開します。 また、上下水道の組織を統合した利点を活かした事務の効率化等を推進し、経費の削減に向けた取り組みを実施しました。 なお、施設管理・改築更新等の財源を確保するため、前期計画の最終年度である令和3年度に実施した中間見直しの結果、令和4年度から令和8年度までの後期5年間での下水道使用料の改定（値上げ）は行わないこととしました。</p>

### ④資金に関する事項

計 画	令和3年度決算における進捗及び評価
<p>安定した財政運営を行うため、総合資金収支に不足が生じないよう資金管理をします。 [担当課：上下水道経営課]</p>	<p>今後、本格化する更新事業に備えて、令和3年度においても内部留保資金の醸成に努めました。引き続き、短期的な支払能力を示す流動比率の向上に努めます。</p>

⑤情報公開に関する事項

計 画	令和3年度決算における進捗及び評価
<p>下水道事業の経営状況については、使用料及び税金等の形態で経営を支え、そのサービスの受益者である市民への公表が求められます。よって、下水道の役割に加え、経営状況など下水道の実態についても、市ホームページ、広報などで正しくわかりやすく伝えます。 [担当課：上下水道経営課、下水道施設課]</p>	<p>令和2年度決算に関する記事を掲載した「上下水道トピックス」を令和3年12月に発行し、広報いるま12月1日号と共に各戸に配布しました。 また、「財務諸表」や「経営比較分析表」を市ホームページに公開しました。</p>

⑥その他の重点事項

計 画	令和3年度決算における進捗及び評価
<p>管路施設は特に重要な幹線等を優先的に耐震化するとともに、必要な機能確保を計画的、段階的に実施します。実施に先がけ、下水道管渠施設総合地震対策計画を策定します。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>平成29年度に「入間市下水道総合地震対策計画」を策定しました。 「重要な幹線等」に対して計画どおり診断業務が実施出来ており、令和2年度から耐震化工事を実施しています。令和3年度は令和2年度からの繰越工事1件（マンホール耐震化1箇所）を含む2件の工事を実施しましたが、うち1件の工事（マンホール耐震化1箇所、マンホール浮上防止1箇所）は令和4年度へ繰越しました。</p>
<p>管路の老朽化状況を踏まえ、布設替えや更生工法による長寿命化を実施します。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>昭和40年代の大規模団地の開発に伴い布設された管路施設の改築（布設替工事・更生工事）事業は、計画的に実施出来ており、令和3年度は管渠布設替工事183.75m、管渠更生工事895.29mを実施しました。</p>
<p>雨天時に汚水管へ流入する雨水による不明水は、処理費用の増加をまねくと共に、管路の流下を阻害するので、不明水の流入を防ぐ対策を講じ、有収率の向上を図ります。実施に先がけ、管路施設管理計画を策定します。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>管路施設管理計画として令和3年度に「入間市雨天時浸入水対策計画」を策定しました。令和4年度より汚水管渠内のテレビカメラ調査を実施する予定であり、調査結果により必要に応じた修繕及び改築工事等の対策を実施し、有収率の向上を図ります。</p>
<p>人口減少や高齢化が進展し投資余力が減少する中で、ストックの改築・更新の増大等を踏まえると、今後未普及対策への投資拡大はますます厳しくなるため、地域の実情に応じた早期概成方策の検討を進めます。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>未普及区域（事業計画区域外）は主に市街化調整区域になります。今後は既存管路施設の不明水対策や老朽化対策など、施設の維持管理を中心とした計画での事業を推進するため、現時点では市街化調整区域の早期概成方策の検討は行っていません。</p>